

社会学研究科

【2024年度大学評価総評】

社会学研究科では取り組むべき教育課程や教育内容のあり方を検討し、社会学コースとメディアコースを統合することが教授会で合意され、2025年度からの実施に向け改革の準備が進められていることは高く評価できる。またコース統合を見据え、入試の一本化や科目の見直し、英語入試に外部スコアを導入するなど入試方法の変更を行うことも評価できる。一方、研究科修士課程における収容定員充足率が2022年度よりは改善されたものの、2023年度でも依然として基準を下回っている。教育課程・教育内容の変更や入試方法の変更と合わせ、受験相談会の体制強化や進学希望者の積極的な掘り起こしを検討している点では評価できる。他方でCOVID-19が5類に移行したことを受け、現状の大学院生の意見から授業の在り方や方法について利点や課題を整理し、コース統合後の教育内容や教育方法等に反映させることも重要である。社会連携・社会貢献については具体的な取り組みに至らなかったとの認識で、今後の公開シンポジウムの開催などの検討が始められていることから、こうした取り組みが研究科としての存在を社会や地域に広めることにつながり、ひいては進学希望者を増やすことにもつながることから今後の対応に期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された
I 現状分析を確認

「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究科（専攻）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究科（専攻）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/gs/shakai/ （社会学研究科HP：現代社会の諸課題に応える知的技法の修得）	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究科において、研究科長及び教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究科において質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学大学院社会学研究科教授会規程 2023年度第2回教授会議事録、2023年度第17回教授会議事録	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/#a06 (社会学研究科ディプロマ・ポリシー) https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/#a06 (社会学研究科カリキュラム・ポリシー) https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/#a06 (社会学研究科カリキュラム・ポリシー) https://www.hosei.ac.jp/application/files/2216/7878/9139/curriculummap_sociology20230401.pdf (社会学研究科カリキュラム・マップ)	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/application/files/2216/7878/9139/curriculummap_sociology20230401.pdf (社会学研究科カリキュラム・マップ) https://www.hosei.ac.jp/application/files/6817/1109/7224/13_2024-shakai2.pdf (履修案内) https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024&gakubueng=EG&t_mode=pc (Web シラバス) https://www.hosei.ac.jp/application/files/6516/7878/9198/curriculumtree_mc_sociology20230401.pdf (社会学研究科修士課程カリキュラム・ツリー) https://www.hosei.ac.jp/application/files/3115/8035/0568/6cc6c3ca3c9050024342d8a0f3d720e8.pdf (社会学研究科博士後期課程カリキュラム・ツリー)	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、	はい

適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	
4.3④単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
4.3⑦研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
4.3⑧研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024&gakubueng=EG&t_mode=pc （Web シラバス） https://www.hosei.ac.jp/application/files/4015/7440/1678/2019_6_shakai_kenkyu_shusi.pdf （社会学研究科研究指導計画：修士課程） https://www.hosei.ac.jp/application/files/3815/7440/1701/2019_6_shakai_kenkyu_hakase.pdf （社会学研究科研究指導計画：博士後期課程） 2024年度オリエンテーション資料（修士論文提出までのタイムスケジュール、博士論文への里程碑）	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
4.4⑥学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑦ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024&gakubueng=EG&t_mode=pc （Web シラバス） 2024年度第1回教授会議事録 https://www.hosei.ac.jp/application/files/6817/1109/7224/13_2024-shakai2.pdf （履修案内） https://www.hosei.ac.jp/application/files/4115/7440/1730/2019_6_shakai_gakui.pdf （法政大学大学院社会学研究科学位論文審査基準）	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
教授会で資料を配布して議論するほか、院生との懇談会において、アンケート結果をもとに、さらに掘り下げた意見を聴取している。	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①修士課程・博士課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
--	----

5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/#a06 (アドミッション・ポリシー)	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	いいえ
【根拠資料】	
2024年度第1回教授会配布資料	

表1

研究科・専攻における収容定員充足率	修士課程	0.50以上2.00未満
	博士課程	0.33以上2.00未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①研究科の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学大学院社会学研究科担当教員の資格に関する基準（内規）	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学大学院社会学研究科担当教員の資格に関する基準（内規）	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
---	----

7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
2024年度オリエンテーション資料	

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
2024年度オリエンテーション資料 https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2404703&nendo=2024&gakubueng=EG&t_mode=pc&radd=(社会学基礎演習1・3シラバス)	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	いいえ
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	いいえ
【根拠資料】	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
5 学生の受け入れ	5.2①【2024年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
【理由】2024年5月1日時点での社会学研究科における収容定員充足率は、修士課程 0.23、博士課程 0.6 となっており、修士課程が表1の数値の範囲外であるため。 【改善計画】修士課程については、2022年度の入学者が1名にとどまったことを受けて、2023年度に、学内（特に社会学部）からの進学希望者を掘り起こすべく、学部の演習担当教員への協力要請を行った。その結果、2024年度入試では社会学部からの学内進学3名、学外からの進学3名と入学者が増加し、一定の改善ができた。しかし、依然として充足率を充たしていないため、2025年度入試に向けて、受験相談会の体制強化や学内からの進学希望者の掘り起こしを進めることによって、一層の入学者増をめざす。とくに2025年度入試は、コース統合によって入試も一本化するため、情報提供の仕方にも留意する。	
大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください

9 社会連携・社会貢献	9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。 9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
【理由】2023年度については、社会貢献について教授会で現状と課題を確認することとなり、具体的な活動への取り組みに至らなかったため。 【改善計画】社会貢献・連携としてコロナ禍以前には地域にも開かれた公開シンポジウム（社会学部と共催）を実施していた。アフターコロナとなり公開シンポジウムも可能になったため、その開催に向けて検討を行う。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>2022年度大学評価結果の総評では、①修士課程での論文執筆に向けた研究活動を支援する「総合演習」の2つのコース合同での実施、②博士後期課程での学術雑誌への論文投稿に向けて模擬査読を行う「社会学総合演習A」、③英語による研究成果の公表のための「社会学研究1」の開講など、リサーチワークとコースワークの密接な連携が評価されていた。社会学研究科では、これら①～③について、2023年度においても継続して取り組んでいると評価できる。</p> <p>2022年度の重点目標「社会学コースとメディアコースの現状と課題について確認する」は達成されており、院生からの意見聴取を踏まえて、コースのあり方について議論した点は評価できる。さらに2023年度に両コースの統合に向けたワーキンググループを設置し「社会学研究科が取り組むべき教育課程と教育内容のあり方について」の議論が継続されている。質保証委員会の所見のとおり統合に向けた具体的な議論の進捗を期待する。</p> <p>また、教育方法に関することで年度目標に掲げられていたオンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題などの確認については、院生懇談会での聞き取りを行いその結果を教授会で共有しており、それを自己点検・評価シートの特徴としても掲げている。確認した結果をもとに留学生の交流機会確保のためにオリエンテーションを対面に切り替えて実施するなど、改善・向上に取り組んでおり評価できる。</p> <p>学生の受け入れについては、2023年5月1日時点での収容定員充足率が基準に抵触している。その原因と課題については把握しており、2023年度に設置したワーキンググループで議論をすることになっており、改善が望まれる。</p> <p>今後も手厚い指導体制による教育の質保証と並んでこれまでの社会貢献面での実績を広く社会に周知し、一層の学生確保につなげていくことを期待したい。</p>
<p>【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>2024年度の課題は、2023年度のワーキンググループと教授会での議論を踏まえて、社会学とメディアの2つのコースの統合に向けて、具体的な入試方法の変更、授業科目の再編を行うことである。入試については、すでにコース別の出題から一本化した出題に変更することが決定しており、そのための具体的な出題方針の検討を進めている。また、英語の試験を外部試験（TOEFL iBT、TOEIC L&R、IELTS、実用英語機能検定）に変更したので、その評価基準も検討する必要がある。授業科目の再編については、コースは統合するが、内容的には社会学とメディア学を主要な領域とした社会課題へのアプローチという方向性が出されているので、それを踏まえて科目選択の自由度と研究の専門性の深化のバランスをとったカリキュラムを検討する。</p> <p>学生の受け入れについては、2024年度には修士課程・博士後期課程とも入学者増が実現し、一定の改善がなされたが、とくに修士課程についてまだ収容定員充足率が低いので、2025年度入試に向けて2023年度の改善方針、とくに学内進学希望者の掘り起こし、受験相談会の体制強化を行っていく。これまでの実績をアピールできるような入試広報についても取り組んでいく予定である。</p> <p>さらに、社会連携・社会貢献についても、アフターコロナとなり公開シンポジウムも可能になったため、その開催に向けて検討を行う。</p>

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5③学習成果を測定するために設定した指標は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5④学習成果を測定するために設定した指標に基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
2025年度からの社会学コースとメディアコースの統合を見据えて、「総合演習」をコース統合型に再編し、社会学とメディア学の双方の観点からの学習成果（とくに修士論文執筆に向けた研究）の評価を可能にした。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
--	---	-----------------------

<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に組み込み、効果的な取り組みへとつなげていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>B（更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>修士課程については、2022年度の入学者が1名にとどまったことを受けて、2023年度に、学内（特に社会学部）からの進学希望者を掘り起こすべく、学部の演習担当教員への協力要請を行った。その結果、2024年度入試では社会学部からの学内進学3名、学外からの進学3名と入学者が増加し、一定の改善ができた。しかし、依然として充足率を充たしていないため、2025年度入試に向けて、受験相談会の体制強化や学内からの進学希望者の掘り起こしを進めることによって、一層の入学増をめざす。とくに2025年度入試は、コース統合によって入試も一本化するため、入試広報における情報提供の仕方にも留意する。</p>		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

<p>6.3①研究科内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>6.3②研究科内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	社会的課題を踏まえ、社会学研究科が取り組むべき教育課程や教育内容のあり方について検討する。	
年度目標	社会学コースとメディアコースの現状と課題について整理する。	
達成指標	社会学コースとメディアコースについて教員間で議論を行い、現状と課題について整理する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	社会学コースとメディアコースの統合に向けたワーキンググループ（WG）を設置し、現状と課題について確認・整理を行った。WGでの議論結果を教授会に報告し、更に検討を行い、2025年度からコース統合することを決定した。
	改善策	－

	質保証委員会による点検・評価	
	所見	二つのコースの統合に向けてワーキンググループ (WG) の設置、そこでの検討を経て研究科教授会への報告、審議がなされ、2025 年度からのコース統合の決定に至ったのは、検討過程の的確さも含めて、この結論は高く評価できる。
	改善のための提言	—
	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
	中期目標	アフターコロナ、ウィズコロナにおける授業のあり方について検討する。
	年度目標	オンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題などを整理する。
	達成指標	昨年度院生から聞き取ったオンライン授業などコロナ禍における授業の利点や課題について整理し、今後の授業のあり方について教員間で議論する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	前年度に院生から確認した利点や課題を教授会で報告することはできたが、授業のあり方の議論は不十分であった。
	改善策	院生からの意見を踏まえ、授業のあり方について教員間で議論する機会を設ける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍によるオンライン授業の具体的な長短について、授業を経験した院生自身の意見が教授会で共有されたことは評価できるが、教員間の議論が不十分であったことが惜しまれる
	改善のための提言	アフターコロナとなり、引き続き院生からの意見をアップデートするとともに、それをふまえて、授業のあり方について教員間で議論する機会を設けることが望まれる。
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	社会学研究科に求められる院生像を確認し、指導の充実を図る。
	年度目標	社会学研究科に求められる院生像を整理し、カリキュラムやオリエンテーションなどのあり方を検討する。
達成指標	社会学研究科に求められる院生像を教員間で整理し、カリキュラムやオリエンテーションを見直す。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「研究倫理 e ラーニングコース (eL CoRE)」について、オリエンテーションで意義を説明し、「基礎演習」担当教員の協力を得て倫理教育を必須にした。昨年度の質保証委員の提言も踏まえ、受講について研究科長に報告するフローを構築した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究倫理教育を「基礎演習」の必須として、さらにその受講を研究科として把握、確認する体制を構築したことは、社会学研究科に求められる院生像のひとつの具体的な現れであると同時に、それを教員間で共有しようとするものとして評価できる。
	改善のための提言	—
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、入試制度の見直しを図る。
	年度目標	現行入試制度における現状と課題について整理する。
達成指標	昨年度教員での議論や院生から聞き取った現行入試制度における現状と課題について整理し、教員間で議論する。	
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S

年度末報告	理由	WG において入試制度について整理を行い、コース統合後は英語入試に外部スコアを導入することを決定するなど教員負担の軽減を行った。 昨年度の質保証委員の提言も踏まえ、学内入試充実に向けて院生による相談会を実施した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2025 年度からのコース統合を見据えて英語入試に外部スコアを導入する決定は、教員の負担軽減につながるのと同時に、社会学研究科における研究教育の特性により適切的な院生の選抜につながるものとして期待される。 また、学内入試充実に向けた院生による相談会の実施は、この入試経路での入学者の拡大につながるものとして注目される。
	改善のための提言	—
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、教員組織のあり方や適切な科目について検討する。
	年度目標	教員組織のあり方や適切な科目について整理する。
	達成指標	教員組織のあり方や適切な科目について整理し、教員間で議論する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コース統合を検討するワーキンググループ (WG) において、教員組織のあり方や科目について現状を整理し、社会学研究科として改めて修了要件や科目名について議論を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コース統合に伴い、教員組織のあり方や科目についての現状を整理し、修了要件や科目名について検討したことは評価できる。
	改善のための提言	2025 年度からのコース統合の実施に向けて、スムーズな移行ができるように、詳細を固めておくことが望まれる。
	評価基準	学生支援
	中期目標	研究科として組織的な学生支援の体制のあり方について検討する。
	年度目標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理する。
	達成指標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理し、教員間で議論する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2つのコースにおける基礎演習と総合演習の関係について確認し、両者の位置づけを整理した。院生にも演習のあり方について確認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2つのコースにおける基礎演習と総合演習の関係について、教員間のみならず、院生とも位置づけを確認したことは、支援体制を明確化したものとして評価できる。
	改善のための提言	基礎演習と総合演習の実施状況をふまえて、支援体制を継続的にモニターしていくことが望まれる。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	社会学研究科にふさわしい社会貢献・連携のあり方について検討する。
	年度目標	これまで取り組んできた社会貢献・連携のあり方について確認する。
	達成指標	社会貢献・連携のあり方について教員間で議論を行い、現状と課題について確認する。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	コース統合に関する議論を優先したため、社会貢献・連携についてはWGでも現状と課題を確認したものの、議論が不十分であった。
	改善策	コース統合の進捗を踏まえて、社会貢献・連携についても議論を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コース統合の議論が進捗して統合が決定したことは、今後の展開の土台を築いたものと評価される。その一方で、コース統合の議論を優先したために、社会貢献・連携についての議論が不十分であったことは惜まれる。
	改善のための提言	アフターコロナとなり、社会貢献・連携について動き出せる状況になってきたので、コース統合もふまえて、今後の社会貢献・連携を検討することが望まれる。また、研究科独自の方針だけでなく、社会学部との連携の可能性についても、模索されてよいだろう。
【重点目標】 社会学コースとメディアコースの現状と課題について整理する。		
【目標を達成するための施策等】 社会学コースとメディアコースの統合に向けたワーキンググループを設置し、現状と課題について整理を行い、教員間で議論を行う。		
【年度目標達成状況総括】 社会学コースとメディアコースを2025年度に統合することについて教授会で合意できた。		

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	社会的課題を踏まえ、社会学研究科が取り組むべき教育課程や教育内容のあり方について検討する。
年度目標	2025年度から社会学コースとメディアコースを統合するために、カリキュラムと履修要件を見直す。
達成指標	教授会でカリキュラムと履修要件の見直しについて議論を行い、2025年度からの新カリキュラムを作成する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	アフターコロナ、ウィズコロナにおける授業のあり方について検討する。
年度目標	アフターコロナにおけるオンライン授業の利点や課題などを整理する。
達成指標	アフターコロナにおける状況について、院生からの聞き取りをアップデートし、授業のあり方について教員間で議論する機会を設ける。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	社会学研究科に求められる院生像を確認し、指導の充実を図る。
年度目標	社会学研究科に求められる院生像を整理し、カリキュラムやオリエンテーションのあり方を検討する。
達成指標	研究倫理の重要性についてオリエンテーションで説明するとともに、「基礎演習」で「研究倫理eラーニングコース(eL CoRE)履修を必須とし、受講を研究科長に報告する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、入試制度の見直しを図る。
年度目標	2025年度から社会学コースとメディアコースを統合するために、入試のあり方を見直す。
達成指標	入試をコース別から一本化し、英語を外部試験として実施する。そのために、受験相談会の体制を強化するとともに、学内進学希望者の掘り起こしを行う。またその結果について検証する。
評価基準	教員・教員組織

中期目標	教育課程と教育内容のあり方の議論を参考にしながら、教員組織のあり方や適切な科目について検討する。
年度目標	教員組織のあり方や適切な科目について整理する。
達成指標	コース統合にともなって、教員組織のあり方や適切な科目について整理し、教員間で議論する。
評価基準	学生支援
中期目標	研究科として組織的な学生支援の体制のあり方について検討する。
年度目標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理する。
達成指標	基礎演習と総合演習の現状と課題について整理し、教員間で議論する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会学研究科にふさわしい社会貢献・連携のあり方について検討する。
年度目標	これまで取り組んできた社会貢献・連携のあり方について確認し、具体的な取り組みの実施を目ざす。
達成指標	具体的な取り組みとして、公開シンポジウムの開催に向けて検討する。
<p>【重点目標】 2025年度から社会学コースとメディアコースを統合するために、カリキュラムと履修要件を見直す。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 教授会でカリキュラムと履修要件の見直しについて議論を行い、2025年度からの新カリキュラムを作成する。</p>	